第５回町田市生涯学習審議会会議録

１．開催日時：２０２５年１０月２８日（火）　１０時００分～
２．開催場所：町田市役所１０階　会議室10－４～５、オンライン
３．出席者
委員　吉田会長、喜名委員、井上委員、阿波野委員、久住委員、
河田委員、西澤委員、渡邉委員、喜田委員、佐々木委員、
仙北屋委員、大野委員、増田委員
事務局　生涯学習部長、生涯学習総務課長、生涯学習センター長、
図書館長、文学館長、生涯学習総務課担当係長、
生涯学習総務課職員
４．答申「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に係る取組状況について
５．答申「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」に係る取組状況について
６．生涯学習部の報告事項
７．その他

【会議内容】

事 務 局：　定刻となりましたので、第５回町田市生涯学習審議会を開催いたします。本日の会議では、過去これまで審議会からいただきました町田市立自由民権資料館そして町田市生涯学習センターのあり方に関わる答申、そちらの対応状況などを議題としております。沢山のご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず本日の資料の確認をさせていただきます。＜資料１～３＞

次に、今回初めてご参加いただく委員がお二方いらっしゃいますので、一言ご挨拶いただきたいと思います。C委員、H委員よろしくお願いします。

＜委員自己紹介＞
今回から参加した委員の自己紹介。

事 務 局：　ありがとうございました。それではここからの議事進行につきまし

て会長にお渡しいたします。よろしくお願いします。

会　　長：　それでは次第に沿って会を進行します。
「答申「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に係る取組状況について」、説明をお願いします。

生涯学習
総務課長：　資料１をご覧ください。自由民権資料館は、１９８６年１１月に開館し、自由民権運動と町田市域の歴史に関する資料を収集、調査などを行うとともに、その成果を展示、講座、また書籍の刊行などにより紹介しております。
生涯学習審議会から２０２０年１１月に今後の自由民権資料館のあり方について答申を受け、２０２１年２月に町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針を策定し、見直しを進めてまいりました。
本日は、見直し方針の進捗をご報告させていただきます。まず、答申では目指すべき姿としまして３点に整理して意見をまとめていただきました。１つ目は「自由民権運動の学びを現代（地域）に活かす」です。自由民権を冠した施設は全国で３館しかありません。この強みを活かして研究成果を発信することで地域の魅力を高めることが大切であるとまとめていただきました。あり方見直し方針では目指す姿を答申と同じく＜自由民権運動の学びを現代（地域）に活かす＞として、“自由民権運動研究といえば町田”と呼ばれるようになることで、町の魅力向上の一翼を担うといたしました。
資料２ページ目の現在の状況ですが、自由民権運動に関する常設展示をリニューアルし、町田地域と合わせて全国的な自由民権運動の動向と意義を紹介しております。また専門職員が在籍しておりますので、「自由民権」に関するさまざまな相談などに対応しております。他市から自由民権運動に関する講師依頼も数多く受けております。
今後の予定としましては、町田の民権家石阪昌孝の娘である石阪美那を中心とした展示を企画しております。
課題ですが、定期的に刊行しておりました紀要『自由民権』について紙媒体での刊行を終了いたしました。今後、研究成果の発信方法について、デジタル化も含めて検討する必要があると考えています。
続いて、答申の２つ目、＜町田市域の歴史を継承する＞です。考古・歴史・民俗資料の一体的な活用に向けた連携としてまとめていただいております。あり方見直し方針では、めざす姿を答申と同じく、

町田市域の歴史を継承するとし、地域の歴史を扱う施設としての責任を全うすることで、市民の誰もが知る施設になるとしました。

３ページ目をご覧ください。現在の取組状況です。自由民権資料館に親しみをもってもらうために、愛称を募集し、２０２３年１１月に「まちれき」に決定しました。また、考古・歴史・民俗資料の一体的な活用として、２０２３年２月に常設展示「町田の歴史－時代でたどる人々のくらし―」をオープンしました。インターネットを通じて町田の歴史をいつでもどこでも学ぶことができる「町田デジタルミュージアム」を２０２２年４月に公開し、デジタル化やＳＮＳでの情報発信に力を入れております。

このほか、町田の歴史を扱う施設として、ご自宅に保管されている歴史史料の散逸を防ぐ取組や収集した歴史史料の整理を着実に進めております。

今後の予定としては、「町田デジタルミュージアム」の更新や史料整理に取り組むこと。課題は、「フィールドミュージアム」の形成につながるよう、周辺地域との連携を強化する必要があることなどです。

４ページ目、答申の３つ目です。＜歴史をとおして人や学びを循環させる＞です。市民の歴史学習の拠点としまして、一人ひとりが自分に合ったかたちで歴史を理解し、楽しく学べるような環境を今後整理していくこととまとめていただきました。あり方見直し方針では、めざす姿を歴史の学びを通して人と地域をつなぐとしまして、多様な担い手と協働し、学びのコミュニティを創るとしております。現在の状況ですが、２０２３年度から「まちだ歴史講座」としまして、地域に特化した講義やフィールドワークなどを実施しております。自分に興味のあるテーマに参加することができますので、新たな参加者の獲得につながっております。また、大学の研究室などと協働で調査研究を行うとともに、地域の歴史愛好家グループなどへの活動支援を行い、資料集の刊行などに発展しております。

５ページ目をご覧ください。小中学校を対象とした出張歴史授業のプログラムを作成し、学校へＰＲを行っております。学校からの依頼件数は年々増えており、子どもたちに地域の歴史を知っていただく機会となっております。今後の予定としては、町田の歴史や自由民権運動を知っていただくために、多様な講座やアウトリーチ事業を展開してまいります。

課題は、地域で活動する団体や、講座受講生同士のコミュニケーシ

ョンの場づくりが求められているということなどです。

最後に、管理運営体制の見直しについてです。答申では、学芸員の継続性が不可欠であることから、直営による運営が望ましいこと、広報業務などの一部について委託することとまとめていただきました。

あり方見直し方針では、取り組みを4つに整理しております。

１つ目、組織体制の見直しと民間活力の一部導入です。６ページ目にかけてご覧ください。２０２２年４月に課内の組織改正を行いました。係制を廃止して、考古・民俗・歴史資料の一体的な活用を進める体制を整え、展示や出張歴史授業などに取り組んでおります。また、自由民権資料館に受付の職員を置き、専門職が専門性を発揮できるような体制を強化しております。さらにチラシやガイドブックの作成など、広報業務の委託化を進めております。

２つ目、史料の取集・整理・保管に関する基準の作成です。こちらは、２０２２年３月に「町田市の歴史資料の収集・保存管理・活用に関する方針」を定めております。

３つ目は、新たな財源の確保です。こちらは紀要への広報掲載ということを試みまして、少しですが歳入につながっております。

４つ目は、新たな成果指標の設定です。それまでは、自由民権資料館の来館者を指標としていましたが、それに加えまして、「まちだの歴史講座」、それから「出張歴史授業」などを含めた人数を指標として効果検証を行っております。また、町田の歴史講座では、参加者アンケートにより満足度の把握を行っております。さらに「町田市教育プラン」の重点事業として、重要資料群の整理率を定め、着実に資料整理を進めております。課題としては、歴史資料の受入れ量が増えており、保管場所を確保すること、他の関連施設も含めた管理運営体制の検討が必要なこと、また、紀要の休刊に伴い、新たな財源確保策が必要であることです。

７ページをご覧ください。展示リニューアルオープン、愛称募集の際のチラシ、出張歴史授業の様子などを掲載しております。併せて、本日チラシをお配りしている現在開催中の企画展「町田とお殿様」です。江戸時代の少し前から明治のはじめにかけての領民と領主の関係などを、史料整理の成果として展示しております。前期の江戸時代中期ぐらいまでの展示が１１月９日まで。展示替えを行いまして、後期は１１月１５日から開催いたしますので、皆様もぜひ、自由民権資料館まで足を運んでいただけたら幸いです。

生涯学習審議会から答申をいただいた後、あり方見直し方針を定

めまして、様々な取組を進めてまいりました。本日はその一部ですが、ご紹介させていただきました。自由民権資料館に、さらに親しみを持ってもらえるように委員の皆様からご意見をいただけたらと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。説明は以上です。

会　　長：　今説明がありましたが、自由民権資料館は町田独自の資料館で、歴史的な背景も含めて、歴史とのつながりを意識されています。答申に対する進捗状況について、意見をお願いしたいと思います。

Ａ 委 員：　町田市の自由民権資料館の歴史的価値は、今のこういう時代だからこそ、もっともっと強く認識しなければいけないなと思っています。

ホームページを見させていただくと、自由民権資料館としての独立したホームページはないですよね。もっとデジタルからの発信というか、バーチャルとリアルをうまく組み合わせていかれるといいのかなと思います。

それから、出前授業もやっていらっしゃるということで、これは町田の財産でもあるので、３年生の教材「わたしたちの町田」の中にも載っているかと思いますけれども、ぜひもっともっと子どもたちに知ってほしいし、誇りにしてほしい施設ではないかなと思っています。今だからこそ、存在価値をもっともっと見いだして、アピールするといいのかと。それにはウェブを使うということも大事かなと思っています。

会　　長：　今はハイブリッドでやる時代になってきていますので、自由民権資料館の在り方も考えていかなければならないと思います。

Ｆ 委 員：　このポリシーを拝見し、２０１９年頃に自由民権資料館を見に行ったときの印象としては、お持ちのものをただ並べてあるような、見に来た方に、どのようなことを伝えたいのかがあまり感じられないのではないかと思っていました。今回、資料を拝見し、とてもすばらしい内容だと思いました。運営をしながら、必要なところを付け加え、改善していくといいのではないかと思いますが、どういうところで膨らませていくかを考えたときに、例えば、資料２ページの今後の予定・課題で「石阪昌孝の長女美那を中心とした企画展」とありますが、この方は、たしか北村透谷のお嫁さんだったと思います。

ですから、例えば明治２０年代におけるこの運動の意味合いや、歴

史的なこともですが、運動が持っている今日的な意義、普遍性というものを明らかにできるような企画を考え、市民文学館でちょっとした企画展示で北村透谷のことを出して、自由民権資料館とリンクして、それぞれ両方見ると理解が深まるようなタイアップができると非常によいのではないか、今後の発展方針として少し考えてもよいのではないかと思いました。基本的な企画としては、非常にいい方向だと感じました。

会　　長：　コラボ企画が今後出てくると、より双方にとって活性化する１つのポイントになるかなと思います。

Ｇ 委 員：　いろいろ新しい試みをされて、愛称も決まり、私もこの答申のときにちょうど参加させていただいたので見学もさせていただいたのですが、そのときも現代的な意味合いにおいてもすごく学びの多い場所だなということの印象を持って、それをもっといろんな方に知っていただけるといいなということを当時感じたところが少しずつ実現していると感じたところです。

Ｆ委員とも重なりますが、「ことばらんど」は、かなり小さいお子様から若い世代まで参加できるような企画展が比較的多く提案されていて、１階の絵本コーナーに、小さい子どももよく行くという声も聞くので、自由民権資料館についても、もう少し若い世代にも訴求するような企画展があってもいいのかなと思いました。

あと、特に人権ということで言うと、今、改めて人権のことはきちんと一人ひとりが学ぶ機会を持つことが求められている時代かなと思いますので、歴史という観点もですが、自由民権運動を含め、人権を獲得してきた歴史を学びながら、現代的な意味合いで、例えば多文化共生みたいなテーマとか、性の多様性とか、現代的な人権の問題とも絡めて、ほかの館とも連携できると、さらに町田市民にとっての学びの機会になるかなと思いました。

会　　長：　今、人権の問題は非常に大きくなっています。新しい時代にふさわしい多文化共生の問題、外国人の問題、結構現代的な課題、歴史も、きちんと対象として学習していく、生涯学習の方向と一緒に考えればいいかなと思います。

Ｈ 委 員：　全国で３館しかないことを初めて知りましたが、全然知られていないと思いました。こういう大事なことを周知していくことは必要だと思っております。市役所にはイベント広場がありますので、自由民権資料館に来てねというのではなく、イベント広場で何か展示をするというのも、あってもいいのかなと思いました。

町田ボランティアセンターでは小学校、中学校の福祉体験学習をコーディネートさせていただいております。その中で、やはり小学生とか中学生に民権資料館があるということを教えていくと、そこに付随する親なども興味を持つということがありますので、何か社協とコラボができたら広げられるのかなと思いました。

会　　長：　イベントや、小中学生対象も考えるといいですね。確かに日本で３館しかないといったらなかなか貴重なものですね。

Ｊ 委 員：　町田市に在住して２０数年経ちますが、恥ずかしながら、自由民権資料館に伺ったことは一度もありません。自由民権資料館という施設があるということも、あまり耳にしたことも正直言ってないので、あり方検討について私が意見を述べるのはあまりにも僭越ですので差し控えたいと思います。

ただ、そういう市民が町田市には非常に多いのではないかなと思います。自由民権資料館の存在自体、どれだけ知られているのかということは非常に疑問ですし、例えば、うちの子ども、今はもう社会人ですけれども、かつて町田市立の小学校時代に自由民権資料館というのは、それを社会科見学等で行ったことがあるのかなというふうに、今ちょっと思い返してみましたが、そういう言葉自体も子どもから特に聞いておりませんでしたので、先ほどホームページの活用等が出ましたけれども、そのようなことも含めて、もっともっと周知に力を入れていただければなというふうに思います。

会　　長：　ＨＰ、ＳＮＳの時代ですので、世代に応じた広め方が恐らくあると思いますので、ご検討いただければと思います。

Ｋ 委 員：　資料４ページに、フィールドミュージアムで周辺地域との連携を強化とありますが、所在地が野津田で、近くにスタジアムがありますよね。サッカーファンの方だといらっしゃる方も多いかなと思うので、来館者について少しでも増やすためには、その辺を利用して周辺マッ

プをつくるとか、バスに貼るとか、そのようなことも積極的にやってはどうかと思いました。もちろん、数字では測り切れないですけれども、来館者を増やすためには地域資源を絶対利用すべきかと思っています。

会　　長：　来館者を増やすことが大きな問題ですね。ただ、町田だけでなくて、この近辺も含めて、大学もたくさんありますので、大いに広報をしていただいて、戦略的なやり方でうまくつながるといいと思います。

Ｉ 委 員：　もともと金井中学校の校長をずっとやっていて、ここに参加させていただいていたので、すごく、ここまでよくいただけたなという感じがします。自由民権資料館とコラボして金井中学校でもっと自由民権資料館を広めていこうと、様々なことを行いました。生徒に見学に行かせたり、生徒会に発表させたり、朝会でデモンストレーションを行いました。自由民権資料館等とオンラインでつないで、学芸員と生徒でやり取りを行うということもやってきました。

それを基にして、ここでも随分話合いをしました。今回、資料を見て、すごくいろんなことをやったと感じました。

ただ、まだまだ広まっていないというのは、私も感じております。私は、今現在は玉川大学で働いていますが、外側からバックアップできるように、いろんなことを考えながらやっています。

先ほどＫ委員からも意見が出ていましたが、私も同じで、野津田のＧＩＯＮスタジアムに近く、子どもたちが通ると思いますので、もう少し目立ってもいいのではないかと思います。

もう一つ、学校に周知することも大事だと思います。学習指導要領が変わってきて、探究学習がこれから入ってきます。子どもたちに、もっといろんなことを調べさせなさいと文科省から出てきていますので、自分たちの地域、歴史、そして自由民権資料館の人権というところも大事なところだと思いますので、この辺も結びつけていくことが大事だと思います。

私はベネズエラの日本人学校に赴任していたことがあります。今年、ノーベル平和賞でベネズエラのマチャド氏が受賞しました。その方が立ち上がった時期に私も赴任していました。ベネズエラはすごいお金持ちの国で、石油が世界第１位の埋蔵量です。ですから、世界一のお金持ちになれる国ですが、発展途上国にあるので、上の人ばっかりがお金をもうけて、下の人がとても貧乏な国です。それで立ち上が

った人です。いまだに弾圧されているような感じがあり、人権というところでも、世界を見ながらくっつけていくというのも１つの視点かなと思いました。

会　　長：　生徒会とのつながりがあってもいいのではないかと思いました。自由民権、要するに、人権、権利をこうであると教える時代ではなく、今は、どうなのかと考える時代です。だから、対立意見も含めて、それを一緒に考えていく場があるといいかと思います。あまり政治的に捉えなくてもいいのではないかと思います。

Ｅ 委 員：　この何年間の自由民権資料館の変わりようを見て、変わっていることはつくづく感じてきました。板垣退助を土佐に行かなくても日本の自由民権運動の全体が見える施設になるのだったら、これはとてもすばらしいことだなと思っています。何しろ、相模から三多摩にかけての自由民権運動の中心的が野津田で、今、資料館のあるところも村野常右衛門の凌霜館のあったところですし、石阪昌孝の屋敷、村野常右衛門の墓、いろいろなものがたくさんあるところです。こういうところをもっと活用して、自由民権運動を知るためには町田に行けばいいんだとなれば、とてもすばらしいなと思っております。ただ、あれだけの狭いスペースで全部をやろうとしたら、野津田の自由民権運動のＰＲをするところがどのぐらい狭まるのかなというのを、とても心配しています。さらに、歴史ということを加えてやるとなると、自由民権運動の特化した資料館というのが薄まってしまうのではないかととても危惧しております。町田は博物館がなくなり、美術部門は版画美術館に、歴史部門は自由民権資料館に持っていけばいいというような感じを受けなくもないです。全国で３つというなかの一つで、しかも東京の町田にあるということはとても大きいです。そんなに人を呼び、お金を落としてくれるところではないと思いますが、来館者が少なくても力を入れて発展させなければいけないと思っております。国際版画美術館も版画に特化している美術館です。

　そういう特化しているところが薄まっていくというのを、とても心配しております。そうならないように、ぜひお願いしたいと思っております。

Ｄ 委 員：　学校という立場から１点。アウトリーチ事業や出張というところで、一番子どもが取っ掛かりがあって誰でも見るのがパネル展です。

戦争のパネル展とかを廊下に展示しておくと結構見ていくので、知ってもらうということについては、もしかしたら有効なのかなと思いました。

会　　長：　パネルの貸出しを学校でやるのもいいかもしれないですね。

Ｃ 委 員：　自由民権運動という、町田が国会だとか国民の参政権を保障するというすごい働きをしたということで、子どもたちもそこで育っていくということに誇りを持っていただきたいなと私は思っているのですが、なかなか選挙とかがあっても行かないという人が多い中、子どもたちに過去の皆さんがいろいろと運動してくれた結果、今、私たちの生活があるということを、こういったところに行ってよく知っていただいて、過去に思いをはせていただければ、またいろいろな歴史にも興味を持ってもらえるのかなと思います。

私も子どもが４人いますが、子どもに聞いても、なかなか歴史の授業というのは、そんな昔のことを知ってどうするといった感じで興味を持ってくれないところがあります。町田には日本で３か所しかない自由民権資料館があるので、それに絡めて、今までご説明があったようないろいろな動きもしていただいているということで、本当に町田の子どもたちは恵まれた環境で学習することができているな思って、今聞いておりました。なかなか他にはない自由民権資料館ですので、ぜひこの先ももっともっと市民も一緒になって盛り上げていけたらと感じたところでございます。

Ｂ 委 員：　自由民権と歴史が一緒になった館になったというお話でしたけれども、子どもたちは小学校の３年生から自分たちの町の周りの様子、歴史に近い古いもの探しから始めて、４年、５年、６年と歴史を学んでいきます。自分たちが生まれた、それから、住んでいるこの町の歴史を知ることは非常に大事なことだと思います。それを地域から少しずつ町田へ広げていっているので、ぜひ小学校の授業で取り上げてもらいたいと思います。コーディネーターの会議で資料をもらって各学校に配っているのですが、なかなか授業の中に取り組めない部分もあります。なので、歴史の授業の中に取り入れられるようなカリキュラムができたらいいと思いました。しかし、私自身も、４２年町田に住んでいて１回も行ったことがありません。

先ほどＤ委員がおっしゃったパネルの話がありましたが、各小中学校

を巡回するパネル展があるといいと思いました。また、町田は広いので、実際に自由民権資料館に足を運ぶのはなかなか難しい方もいると思います。行き方や周知方法の工夫があったらいいと思いました。

この何年かで、かなり画期的に考えていらっしゃると思いました。ぜひ子どもたちに取り込める方法を考えていけたらいいなと思いました。

副 会 長： 資料６ページ「新たな財源の検討」で、③「広告掲載をおこない」とありますが、具体的にはどういうところが自由民権に関して広告協力、関心を持ってくださる企業なのか気になりました。刊行物として紙媒体での発行が終了したということで、今後、デジタル発信になっていけば、ますます興味を持ってくださる、協力してくださるところが増えていくのではないかと思うので、紙媒体の終了とともに、関連するところ、協力していただけるところへの周知が必要かと思いました。

「町田かるた」の「も」の札で「求めよう　自由と権利　石阪昌孝」とあり、こういうところから子どもたちは興味があると思いますし、他にも本町田遺跡とか仲見世商店街などの札もあるので、子どもたちにツアーなどを考えていけたら楽しいのかなと思いました。

会　　長：デジタル戦略をする必要があるかと思います。アウトリーチがこれからすごく大事な点であって、待っていても誰も来ませんから、いかに出張したり、持っていったり、現場のニーズに合わせて調整することが大きく、大事な時代だと思います。

それから、単に実際のリアルなものだけでなくて、デジタルな面でできれば、よりよい自由民権資料館になると思います。

ヒューマンライツという問題は結構大きくて、国際的にも非常に注目されているところですので、町田がここにあり、町田に資料館があるということを大いにアピールして、本当に国際的に少し発信力を強めていくことも考えられる時代かなと思います。

では、次に「答申「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」に係る取組状況について」、説明をお願いします。

生涯学習
センター長：それでは、答申「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」に係る取組状況について説明をさせていただきます。２０２１年１月

に生涯学習審議会に対して、今後の町田市生涯学習センターのあり方についてを諮問し、同年１１月に答申をいただきました。

この答申を踏まえ、２０２２年２月に町田市生涯学習センターのあり方見直し方針を策定し、これまで様々な見直しを進めてきましたので、現在の取組状況等についてご報告をさせていただきます。

資料の２、答申内容と現在の取組状況について説明させていただきます。

（１）の目指すべき姿については、事業の整理及びリソースの再配分で、答申概要につきましては箇条書きにさせていただいております。今後重点を置く事業（機能）を明確にしたうえで、事業の整理を行い、生み出したリソースを再配分すること。「生涯学習支援にかかる機能」を充実させるため、関係機関・各種団体・他部署の生涯学習情報を収集・整理し、多様な発信をする“ハブ機能”をしっかりと担うことです。

現在の状況ですが、生涯学習情報の体系化・ネットワークの構築に向けて、生涯学習センターの全ての事業を４つの役割に整理し、２０２３年度から家庭教育支援事業の一部整理により生み出したリソースをアウトリーチによる講座実施に活用したほか、２０２４年度には「学びのきっかけづくり講座」と題した４講座を実施するなど、学びに出会うための「きっかけづくり」に重点を置いた事業の充実を図りました。

２ページ目をご覧ください。生涯学習情報のネットワークの構築に向けては、専門的な知識や大学、企業等とのネットワークを有している「公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム」と連携し、地域資源を活用してまいりました。また、２０２３年度には、市民の学習・教育機会の充実などを図るため、相模原・町田地域教育連携プラットフォーム包括連携協定を締結いたしました。

学習相談につきましては、「コンシェルジュ相談」と「コーディネート相談」の２系統に整理し、２０２３年度からはコンシェルジュ的な相談に対応するための学習相談員を、２０２４年度からはコーディネート相談に対応するための相談チームを施設窓口に配置して相談体制を強化しております。

今後の予定・課題です。引き続き、生涯学習情報の体系化・ネットワークの構築を進めることにより、関係機関・各種団体・他部署と重複する事業につきまして、生涯学習センターの役割に合わせて整理をします。

学習相談につきましては、２０２５年１月のリニューアルオープンに合わせまして学習相談員と相談チームのさらなる連携を図り、相談体制をさらに強化をしてまいります。

次に、デジタル技術の活用と地域の学びの推進でございます。

答申概要は、場所や時間の制限なく学べる環境を充実させるため、学習機会の提供や情報発信の手段として積極的にデジタル化を推進することです。

現在の状況です。２０２５年２月からは全庁的な施策としてＡＩを用いて地域の講座・イベント情報を収集・掲載する「まちだイベントなび」ページを、２０２５年７月からは、生涯学習センターで収集・把握したリカレント・リスキルに関する講座等の情報を掲載する「リカレント・リスキル講座情報」ページを、それぞれ町田市公式ホームページの中に新設し、情報提供を開始いたしました。

このほか、事業等で連携しております「公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム」においても、２０２５年度から、公益社団法人のホームページを一新しまして、地域の生涯学習情報の掲載を強化していただいておりまして、市の主催に限らず広範な生涯学習情報が提供できる体制を整えてまいりました。

３ページ目をご覧ください。

２項目には、ＳＮＳによる情報発信のほかに、従来どおり、紙媒体で発行している情報誌「生涯学習ＮＡＶＩ」を「ＴＡＭＡｅｂｏｏｋｓ（タマイーブックス）」で公開しまして、情報をデジタル化して進めているところになります。

講座事業につきましては、オンデマンド配信を実施し、２０２４年度の実績としては４％となっております。

今後の予定でございます。講座事業につきましてはデジタル化をさらに拡大しまして、２０２８年度までに講座のデジタル化率１０％を目指しております。また、チラシ、あるいは広告情報を配信する「ＳＨＵＦＯＯ！（シュフー）」というアプリにこちらの講座情報を提供するということを、今手続しているところなので、これから見られるようになるかというところで提供してまいります。

次に、社会的課題への迅速な対応についてです。

答申概要としては、市民が豊かな人生を送ることができるよう、多くの人たちに必要とされる社会的課題などをテーマとした学習機会を適宜提供していくこと。

リソース再配分により、新たな社会的課題に迅速に対応するため、

事業内容の精査や新設及び廃止の検討を確実に行う体制を整えることです。

現在の状況です。デジタルデバイドを解消するための事業としまして、マンツーマン形式と集合形式の２つの講座を実施しております。家庭教育支援事業としましては、不登校に関する保護者向け講座を実施しております。市民大学事業につきましては、新たな社会的課題に迅速に対応できるよう、そういった講座のテーマ設定を随時行っております。

今後の予定・課題です。その時々の社会的課題をテーマとした学習機会の提供を引き続き拡充していく必要があると考えております。

市民大学事業につきましては、２０２６年度、来年度、「地域を育てる」というものを軸としまして、講座へと再構築して、例えば福祉に関する地域活動ですとか、デジタル機器に関する相談ですとか、地域の課題解決に向けた人材を発掘・育成する講座を新設しまして、学習成果を活かせる場の拡充を図ってまいりたいと考えております。

４ページ目になります。名称の整理です。

答申概要につきましては、町田市生涯学習センターが設立された際に重点を置くべきとされた「生涯学習支援にかかる機能」の充実を確実に行うことを示すため、名称の整理を行うこと。名称の整理が町田市生涯学習センターの認知度の向上及び施設への愛着の形成につながるよう工夫することです。

現在、１つの施設に対して名称が２つございます。１つは「町田市生涯学習センター」、もう一つは「まちだ中央公民館」です。これが利用者にとっても分かりにくい状況が続いている状況になります。名称の変更につきましては、今後も引き続き利用者のご意見を伺いながら検討を進めたいと考えおります。

（２）効率的・効果的な管理運営手法についてです。

民間活力の導入と、効率的・効果的な運営を推進する実行体制の整備の２つです。

答申概要です。“行政でなければ担えない機能”と“民間のノウハウが活かせる機能”を整理した上で、後者については民間活力を導入していくこと。本答申を踏まえ、実行するための計画の作成や、生涯学習組織の改編を行うなど、確実に見直しを進めることです。

現在の状況です。「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」及び「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」におきまして、実施に向けた工程表をお示ししました。計画に基づき運営体制や組織

体制の見直しの検討を行った上で、２０２６年度から学習相談のうち、コンシェルジュ相談業務と講座事業の一部を新たに民間事業者へ委託するための検討を進めております。

今後の予定につきましては、来年度から実施予定の委託範囲拡大の成果を検証してまいります。

資料の最後に先ほど紹介しました市のホームページの中の「まちだイベントなび」、講座の案内である「なんでもスマホ相談室」、「不登校・行き渋りを考える」、２５年度の市民大学の募集のチラシを載せております。説明は以上になります。よろしくお願いします。

会　　長：　それでは、ご意見をいただきたいと思います。

Ｂ 委 員：　私たち学校支援ボランティアコーディネーターは、例えば学校で子どもに琴を教えてくれる人が必要となった際、持っている情報を使って人材を探してお願いしています。ご自身が学んだものを子どもたちに還元してくださるのは非常にありがたいことですが、子どもたちに教えるのが不慣れで形になっていないということがあります。その辺がもう少し改善されると、いいなと思っています。

Ｃ 委 員：　生涯学習センターではいろいろな講座を行っていて、市民にとっても非常にありがたいことだと思いました。また、ＰＴＡが関係するところでは、例えば「不登校・行き渋りを考える」の講座がありますが、保護者たちも働いていたり、日曜日もなかなか行けないこともあります。講座のデジタル化もこれからさらに増やしていくという話もありましたので、ぜひそのような対応をしていただけたらと思います。

もう１０何年も前に私も父親として、「パパと一緒にきしゃポッポ」に参加しましたが、非常に多岐にわたった事業を行っているので、いろいろ利用しやすくていいのかなと思います。私は国際交流センターのボランティアを１０年以上やっており、町田国際交流センターとの共催事業の運営側をやっていますが、１５０人を募集して応募が６５人で参加５１人でした。せっかくいろいろ企画しても、市民の参加が少ないというのは非常に残念なので、もうちょっとうまく広報できないかなというのが私の中での課題かなと思っております。

Ｄ 委 員：　地域でどんな生涯学習をやっているのかなというのを調べたところ、つくし野コミュニティセンターで数十種類ぐらいあって、南町田

のほうでも相当な数があるんです。今も生涯学習センターの取組を見て、色々なところに色々なものがあると思いました。先ほどもお話がありましたが、行政でなければできないものとか、民間だったら、ここは地域に委ねようというところがすみ分けされていくのかなと思いながら話を伺っていました。

E 委 員： 生涯学習センターは、いつでも誰でも学びの機会という考えで取り組んでいますが、セーフティーネットというのがとても大事で、そういうところにも力を入れようとしています。

青年学級や市民大学などの再構築が進められていますが、セーフティーネットとしての部分に力を入れていくのかなと思っております。

また、地域の課題やニーズを発掘して、それを解決していくことに対し、学習という面から取り組もうとしていますが、そのためには地域で活動する人材を育てることがとても大事なことだと思います。

それから、民間活力の導入については、商業的な企業等ではなく、ます、相模原・町田大学地域コンソーシアムの様なところへの委託から始めていくのかなと思っています。ただ、生涯学習というテーマから外れたり、サービスの低下を招いたりしてはいけないので、慎重に取り組んでいくべきだと思います。

名称の問題についてですが、生涯学習センターがあるビルの名称が「町田センタービル」といいますが、一般にはあまり通じません。以前は「レミィ」という愛称が付けられましたが、愛称自体をつくっても内容と結びつかないと浸透はしないですよね。中央公民館と生涯学習センターの名称を整理するといっても、公民館という名称を無くすことで、法律で定められた公民館としての役割が無くなると思う方もいますので、非常に難しいところです。親しまれる名前をつければいいという話ではなく、とても慎重に取り組んでいかなければいけない問題がたくさんあると思っています。

I 委 員： いろいろな講座が開かれているのがすごく増えたなという感じがしました。ですので、生涯学習センターでいろいろと努力されているのかと思います。

特に、今回出た自由民権資料館の宣伝という意味でも、生涯学習センターでやっていただければそちらに行くというようなつながりができると思いますので、さらに増やしていただければ興味を持たれるかなと感じました。

また、デジタル化はとてもいいと思います。しかし、紙媒体から探すことも結構効果があると思いますので、デジタルにされるという部分が多くなってきたら、それをどのように周知していくかというところもまた考えていただければと思います。

K 委 員：　資料２ページの学習相談員について、具体的にはどういう相談を受けておられるのでしょうか。インターネットで何か検索すると、よくある質問とかに行ってしまい、自分は何を知りたかったのか、よく分からなくなったりすることもあるので、直接相談を受けるというのは割と大事なのかなと思います。

生涯学習
センター長：　ご質問ありがとうございます。今おっしゃっていただいたとおり、ネット等で調べる情報はたくさんありますが、そこで道に迷ってしまう方もいます。そういった方から相談員の会計年度任用職員がお話を伺い、何がされたいのかなどを整理した上で、ネットから得られる情報なども含めて分かりやすくご案内しています。

さらに、ボランティアの方とのマッチングなどが必要な内容については、コーディネートチームを市の職員でつくり、どういった団体が適切か、また紹介しても大丈夫なのかなどを確認した上でご案内しております。

J 委 員：　一昨年、その前と生涯学習センター運営協議会の委員を務めさせていただきましたので、その際もいろいろと意見を申し上げましたけれども、今日は１点だけ、これは行政の方々には耳の痛い意見になるかと思いますけれども、名称の関係で申し上げたいと思います。

今日の報告での今後の予定では、引き続き利用者等の意見を伺いながら検討を進めるというようなまとめになっておりますけれども、２０２３年２月に教育委員会の場で運営見直しの実行計画というものが、もう既に定められております。この中では、生涯学習センターにつきましては、生涯学習センター条例を改正し、生涯学習センター条例に一本化しますというようなことがもう明記されています。これはもう検討ではなくて、はっきりとこのような形でもう一本化しますということで断定されているんですね。

ですから、先ほど名称についていろいろとお話が出ましたけれども、そのような議論というのは既に整理された上で、教育委員会でこ

のような決定がなされたというふうに私は理解しておりました。にもかかわらず、もう２０２５年、これは２０２４年までに条例改正の手続が進められるというまとめになっておりまして、ホームページにも当然公開されております。今、もう２０２５年もあと数か月で終わろうとしているときに、まだ引き続き利用者等の意見を伺いながら検討を進めるというのはどういうことなのかなというふうに思ってしまいます。

教育委員会で定めた実行計画というのは何の意味も持たずに、ただずるずると議論の先延ばし、検討の先延ばしがなされているような状況にしか見えないです。申し訳ないですが、ちょっと強い言葉になってしまいますが、これは行政の怠慢というふうに感じざるを得ません。

Ｈ 委 員：　町田市社会福祉協議会の地域福祉課の中に町田ボランティアセンターを運営しております。資料３ページ「地域の課題解決に向けた人材を発掘・育成」、これは社会福祉協議会でもミッションとしておりまして、生涯学習センターの登録をされている方、あとボランティアセンターに登録されている方が重複していることもありますので、ここは連携して、一体的に町田市で人材を発掘しながら育てていくというような形で連携を取らせていただけたらと、すごく思いました。

講座のほうも、ボランティアさんも今、高齢化し、なかなか育成、発掘は難しいところもありますが、講座を打って、今は若い、４０代、５０代の方にも興味を持ってもらい、地域に目を向けるというような形でボランティアセンターでは考えておりますので、ぜひ連携を取らせていただけたらなと深く思いました。

Ｇ 委 員：　Ｈ委員のお話には大変、ぜひ賛成というか、我々も地域活動を支援している立場では、一体的に取り組めればいいなということは常々感じているところでございます。

１つだけ、私は市民大学ＨＡＴＳのほうで、去年、講師を務めさせていただいたので、１回目から自分の回まで受講生としても参加させていただいて、今年は少し変えたということも伺ったのですが、すごくいい内容で、参加者も高校生が１人参加していたり、現場での実習みたいなこともあって、とてもいい内容だったなと思います。

参加人数がそんなに多くなかったのがとても残念でしたが、こういった講座は残っていくといいと感じたところです。すごくよかったの

が、運営委員が企画を考えて、受講生がいて、生涯学習センターの職員の方と一体的に活動されていて、なので、今後、民間活力の活用にも、１つの事業者に委託をするだけではなくて、いろんな委員に入っていただくとか、講座の講師という形とか、いろんな形でいろんな方が運営に関わっていただけるやり方はぜひ継続していただけると、すごくそこでの広がりが出てくるなというのを講座に参加して感じました。

職員の方も、担当の方が講座の最後に一言ずつ、ご自身のご感想も毎回お話しされていて、それもすごくよくて、ただの運営者というよりは、ご自身がそこで感じて学んだことも受講生にフィードバックしてくださったりとか、受講した方もそれぞれ実習した内容もフィードバックしてくださったりとか、お互いのやり取りでの学びも深まっていったので、すごくいい取組だなと思ったので、ああいう仕組みが全体に広がっていくと活性化するのかなというのをすごく感じたところでした。

Ｆ 委 員：　私も、１０年以上前に、生涯学習センターで文学の講座を持たせていただいたことがありまして、とにかく多岐にわたっていろんなことをなさっていて、これを統括するのはかなり大変だと、当時から思っておりました。Ｉ委員が、いろんなバリエーションが増えてとてもよいと言っていましたが、私もそう思いました。まちだ中央公民館という名称と町田市生涯学習センターという２つの名称を有しているということで、これが一本化するとかしないということに関しては、経緯を全然存じ上げませんので、その点は置いておくことといたしまして、むしろ、２つ名称があるのであれば、例えばまちだ中央公民館はこういう傾向の講座をやるとか、あるいは生涯学習センターのほうではこういう傾向の講座をやるとか、そのように、運営していく団体は１つで統括していくにしろ、利用者の側としては、まちだ中央公民館のほうではこういう傾向の講座が多いよね、生涯学習のほうではこういう傾向の講座だよねと、その名称からイメージしてもらえるような形にすると、すっきりするところもあるかと思いました。１つの可能性として、もしそのようにできるかもしれないということであるのならば、それは検討されてもよいのではないかなと感じた次第であります。

Ａ 委 員：　今までお話を伺っていた全くそのとおりだなと思ったところです

けれども、今、社会全体がリスキリングとか、学び直しとか、リカレントとか、学び続けるということが求められている中で、この生涯学習センターの役割も大きいのではないかなと思っていまして、学びたいと思ったときにここに来れば何か学べるというのが、コンシェルジュ的機能とか、ハブ機能というので達成されていくのかなというふうにも思っています。

学校教育の中でも学び続けるためのスキルを身につけていくことが求められているわけですけれども、もう一つ別の視点として、今、実際に働いている勤労者、そういう人たちも参加していると思いますが、そういう人たちが何かビジネススキルを身につけるとか、起業をするためのノウハウを身につけるとか、何かそういう人たちに向けたものも必要なのかなと思います。

そういう意味では、その場所だけではなくて、サテライト的なものとか、オンラインとか、そんな参加の仕方ももっともっと広がっていくといいかなと思います。以上です。

副 会 長：　今までは学校を卒業したら就職して定年で隠居生活だったのが、最近は、就職や定年の後に学び直しが入ることによって、それがボランティアや起業につながり、最後のご隠居生活というのがなくなって、生涯現役になるのではないかと思っています。

そういう意味で、この生涯学習センターというのは非常に大きな役割を担っていると感じています。ＳＤＧｓの誰もが質の高い教育をということでは、いつも能動的な方ばかりではなく、受動的な方にいかに届けられるか、常にどのように周知していくかというところが課題だと思います。「まちだイベントなび」、「ＴＡＭＡｅｂｏｏｋｓ（タマイーブックス）」、「ＳＨＵＦＯＯ！（シュフー）」など、アプリがとにかくたくさんあって、自分はどれを見て常に情報をキャッチしたらいいんだろうと、そこ自体も非常に複雑かと思います。自分から見に行かなくてもお知らせ機能で更新したことが分かるなど、次にこんな企画があるというのが受け身の形でも自分が知ることが出来るというのが非常に大切になってくるのかなと感じました。

会　　長：　今、学校教育との接続の問題も出てきておりますし、本当に学び続けるということで、学校自体が生涯役に立つ、そういう方向でコンテンツ自体を調整している時代ですので、子どもたちの不登校の話もありましたけれども、行き渋りを考えるという保護者対応だけではなく

て、子どもたち自身も直接生涯学習の場に寄るということも考えられるのではないかと思います。

それから、ＳＮＳの一体的な推進も今後の課題だと思うし、ネットワークをつくるというのは非常に大事で、あちこちでいろんなネットワーク、人材を確保しているわけですけれども、お互いの連携とか対応があまりうまくいっていないのは、どこの自治体でも言えると思います。一元化していく方向も少し考えていく必要があるかなと思います。今、ユーチューブではありとあらゆるものが全部動画で載っています。あれを見るとほとんどのものが分かる時代になっているので、そのような発想のデジタル配信みたいなものも今後考えていくことが必要かなと思います。

では、次に「生涯学習部の報告事項について」について事務局から説明をお願いします。

事 務 局：　資料３の生涯学習部の報告事項です。

前回の生涯学習審議会以降に開催しました町田市教育委員会定例会、町田市議会で出ました生涯学習に関わる事項について、参考にお知らせしているものです。

会　　長：　では、その他、説明等はありますか。

Ｉ 委 員：　私から「町田かるた」について、お話させていただきたいことがあります。「町田かるた」を皆さんご存じでしょうか。鶴川地区の方々を中心に作成したものです。群馬県の「上毛かるた」を模して、町田でもいろいろな場所、歴史をかるたにしてみようと立ち上がり、全小中学校に配られているものです。町田はかなり昔から人が住んでいて、歴史的にも、重要な位置にいる場所だったことがすごくよく分かるものになっています。

絵は、玉川大学の学生が協力をしてつくったものです。以前は久美堂で販売していましたが、現在は販売を終了しているような状況です。

かるた作成団体が、せっかくつくったので、もっと広めていきたいと思っているようですが、予算が必要なのが現状だそうです。その団体から声をかけられて、一緒に協力してほしいとお話をいただき、私も活動しています。

まず、かるたを知ってもらうところから始めようと、全小中学校に

行き、宣伝を考えています。学校でやっていただいて、子どもたちから親御さんに伝えていただいて、家族で買ってやってもらうことを考えております。

「町田かるた」は、子どもたちだけでなくて一般の方々にも町田を知っていただくことでかなり効果があると思っています。様々な団体がやってみたいという声があれば、かるたはこちらで持っていきたいと思っています。

私が講師として、説明しながら宣伝していくような運営をします。もし興味があれば、ご連絡いただきたいです。

今後、どのようにしてお金を集めていこうかということも考えております。クラウドファンディングが立ち上がった場合には、ぜひ協力していただければ嬉しいです。

会　　長：「町田かるた」は多様性のある町田にふさわしい素材だと思います。お金をどうやって集めるかとか、どうやって販拡するかということも恐らく出ると思いますが、その辺も含めて何かご意見、相談、ございますか。

Ｅ 委 員：　かるたを作る際、まず見本を作られたと思います。絵を描いて、文章をつくる作業があって、最初はかなりお金がかかったと思うのですが、お金はどこから出したのでしょうか。私の知人で、町田のすごろくをつくった人がいます。物ができたら販売してもいいというところはあるが、最初につくるのにお金がかかって、なかなかうまくいかないと聞きます。

Ｉ 委 員：　私は立上げのときには関わっていなかったので、詳しくは分かりませんが、資金的には厳しいと聞いています。

会　　長：　行政が支援するところもあります。狛江市は、小学校の社会科副読本をつくっていて、無償で全児童に提供します。そこには様々なコンテンツが入っています。「町田かるた」は教材としても役に立ちそうだと思うので、行政に支援を求めることも考えていいのではないでしょうか。

その他、事務局から説明等はありますか。

事 務 局：　次回の審議会の開催についてです。

本日が今年度２回目で、もう１回、今年度中に行いますが、今のところ、１月の下旬から２月の上旬にかけての開催を考えております。また時期が近づきましたら委員の皆様にご都合等を伺うメールをお送りいたします。日程調整の上、開催を決めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

生涯学習

総務課長：　「町田かるた」のお話になりますが、まちだ〇ごと大作戦の取組の一つとして行ったものです。

本日、自由民権資料館と生涯学習センターについていろいろご意見をいただいて、本当にありがとうございました。いただいたご意見は今後の運営に生かしてまいりたいと考えております。

最後に一つＰＲさせていただきたい事項がございます。先ほど、石阪美那のお話がありましたが、本日は担当学芸員が来ておりますので、ご説明をさせていただきます。

事 務 局：来年度、自由民権資料館で石阪美那（北村美那）をメインにした展示を考えています。今年の６月ぐらいまで朝日新聞で連載をしていた小説の主人公だったこともあり来年度の企画にしています。北村透谷との関係でご意見いただきましたが、今回は民権家の子どもとして生まれた人間はどのようにその後の人生を生きていくのかというような問題意識から兄弟３人を取り上げるという展示を考えています。

ぜひ、ご来館いただければと思います。よろしくお願いします。

会　　長：　先ほどＦ委員のお話にもあったように、面白い関係だと思いますよね。私は北村透谷が好きなので、ぜひ行ってみたいと思います。これにて第５回生涯学習審議会を終了いたします。

《資料》

資料１　答申「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に係る取組状況について

資料２　答申「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」に係る取組状況について

資料３　生涯学習部の報告事項